

(様式2)

|    |     |      |    |     |             |
|----|-----|------|----|-----|-------------|
| 校種 | 小・中 | 学校番号 | 60 | 学校名 | 宇都宮市立上河内東学校 |
|----|-----|------|----|-----|-------------|

## 令和6年度 学習指導に関する取組

### 1 学習指導上の主な実態

#### (1) 国・県・市の学力調査などから

- ・毎年、各学年とも学力定着度に差が見られる。基本的な内容の定着を図るとともに、基本を活用して考える問題や文章で説明する問題についても力を付けていく必要がある。
- ・国語の知識・技能については、どの学年も市の平均を上回っているが、思考・判断・表現は下回っている。
- ・国語では、物語文において叙述を基に登場人物の心情を捉えたり、問題や資料から読み取って理解したことから条件に沿って解答を表わしたりするという記述式の設問や、話し合いの内容を聞き取る問題において、課題が見られた。
- ・算数の知識・技能については、市の平均を上回る学年が多く、思考・判断・表現についても上回るか同程度である。
- ・算数の図形の領域では、面積を求める問題や、面積の大きさを判断し理由を述べたり、作図を説明したりするなど記述の問題で課題が見られた。

#### (2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・アンケート調査では、発表に自信がもてないと答えた児童が多く、また、グループ活動においても自分の意見を積極的に表現することが苦手な傾向が見られる。

#### (3) 授業等への取組状況から

- ・与えられた学習課題に対して、根気強く真面目に取り組む児童が多い。グループ学習やペア学習、体験的な活動にも意欲的に取り組むことができる。
- ・自分で見通しをもって考えたり、筋道を立てて考えたりすることが苦手だが、主体的に課題に取り組んで解決していこうとする態度や、話し合う・考えを書くといった言語活動に意欲的に取り組もうとする態度が育っている。

### 2 今年度の重点目標

自分の思いを豊かに表現し、生き生きと学び合う児童の育成

- ### 3 今年度の取組
- (「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○)

(1) 基礎・基本の確実な定着

- ★□・主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の展開  
宇都宮モデル（はっきり じっくり すっきり）の徹底
- ★・家庭学習の習慣化（低・中・高学年に応じた家庭学習）（通年）
- ★・朝の学習での反復練習（国語・算数）、A Iドリルの活用（通年）
  - ・習熟度別学習 かがやきルームの活用（通年）
  - ・音読活動の推進
  - ・教科担任制の推進
  - ・個に応じた習熟プリント（通年）

(2) 学習指導の工夫・改善

- ★□・めあての提示によるねらいの理解と、ねらいに沿った振り返り活動の工夫（通年）
- ★・各種学力調査、質問紙調査の結果を生かした指導の共通理解と共通実践（通年）
- ★・生き生きと学び合い、協働的に課題解決をする学習活動の工夫（通年）
- ・一人一授業の実践と授業研究会の実施（通年）
  - ・話す・聞く力の向上にむけて、朝の会に「スピーチの時間」と、「メモの取り方」の手引きを活用（3～6年）（通年）

(3) 読書活動の推進

- ・朝の活動を利用した15分間読書（水・金）や校内読書週間（11月）の実施
- ・図書ボランティアや教職員による読み聞かせの実施（通年）

(4) 家庭・地域との連携・協力

- ・「東っ子の学習」を活用した家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携（通年）
- ・「ゆずっ子5つの約束」による地域学校園で連携した取り組み（通年）
- ・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力（通年）

(5) 宮・未来キャリア教育の推進

- ・キャリアパスポートを活用し、年間指導計画の実践を通して、児童の勤労観・職業観の育成

(6) GIGA スクール構想

- ★・児童生徒の発達の段階を踏まえながら、学習内容や学習活動に応じて1人1台端末を効果的に活用し、授業の質的向上を図る。（通年）

(7) 宇都宮学

- ・社会科、総合的な学習の時間を中心に副読本や映像教材等を活用した郷土愛の醸成
- ・地域の伝統的な行事活動への参加、体験活動の充実（通年）
- ・食育との連携（通年）